

秋の

下条ホステリング感想文集

2020.11.21-22

(令和2年)

いろんなことが
きて楽しかった

7kmも歩いたので
つかれた・・・

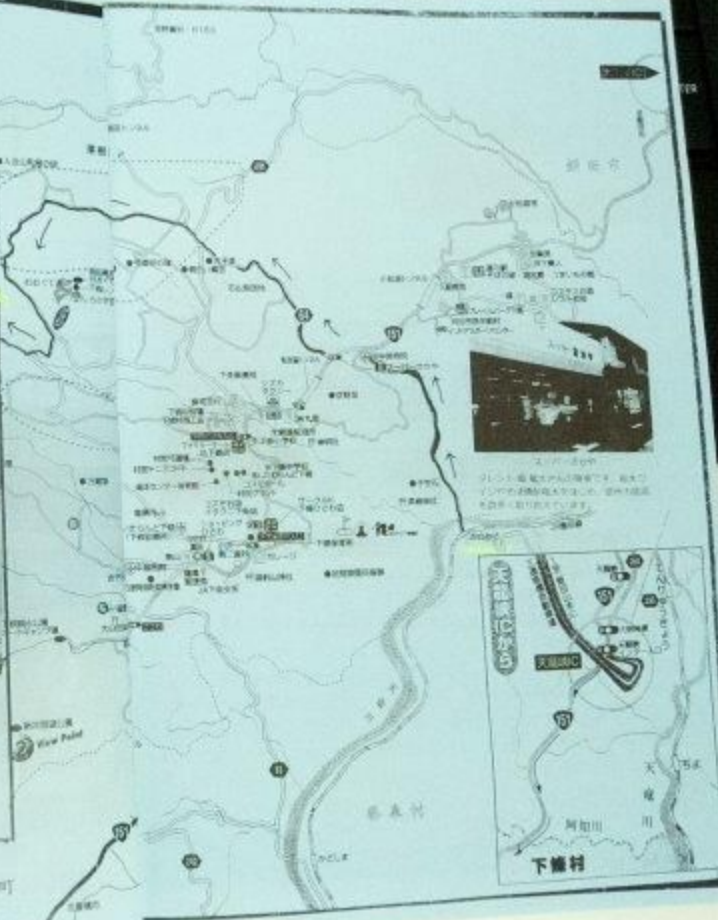
五平もち
おいしかった♡

ビ
イ
ち
ゃ
ん
も
い
っ
し
ょ



磐田ジュニアホステリングクラブ

下條村MAP



この中心集積地は、町民の生活の中心として、様々な施設が集中しています。また、この中心集積地は、町民の生活の中心として、様々な施設が集中しています。



阿南町

下条ランド ユースホステル



定員 12名収容

TEL.0260-27-2714/FAX.0260-27-2717

天体観測や野鳥観察、植物観察や昆虫採集など自然に恵まれたフィールド。観葉植物もオススメ。

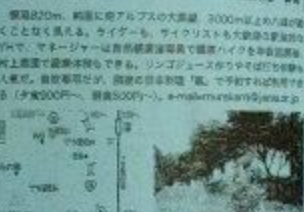
下条ランドユースホステル

下条ランドユースホステル Shimoda Land

〒0260-27-2714 0260-27-1022
〒0260-2701 長野県下伊豆郡下條村産平
7652-08

交通 JRの東海線駅から10分、徒歩10分、
中央自動車道出口からR181
徒歩で30分、駅前南端で徒歩15分
あり、バス台
施設 熱湯浴、定員12名、メンバーズ
キッチン、村上公園、自然観察フィールド、

宿泊料	1名2750円	湯元
	2名以上2700円	湯元
※	湯元1名2700円	湯元

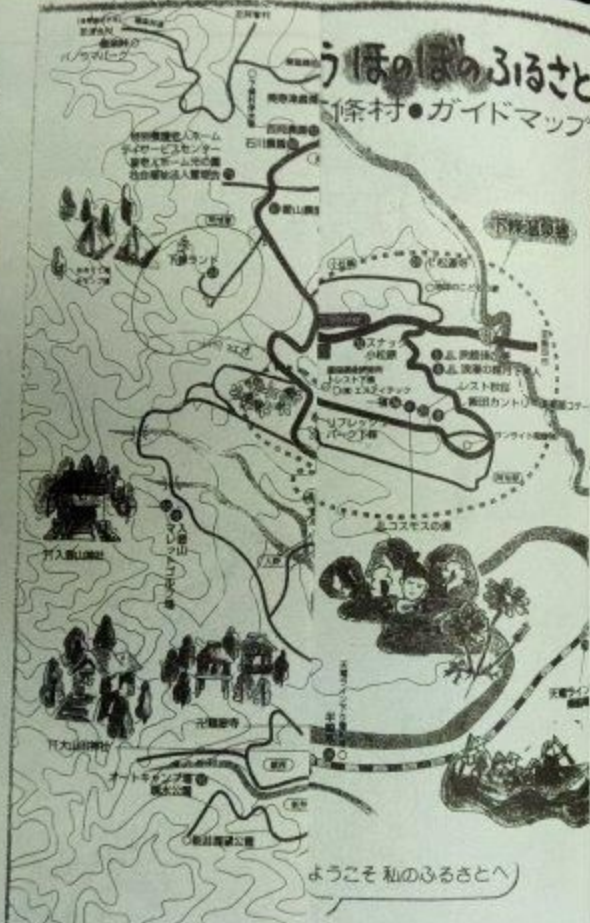


下条ランド YH のベアレント・村上和彦さんとは？

昭和14年生。静岡市出身。父が職業軍人だったため、北海道や東北など各地を転居、中学生の時、福江町に住み、高校卒業後、金融機関に就職。以後、19年間、伊東、浜松、静岡、豊川、静岡、新居支店等に勤務。働きながら夜学で浜松商科短大(当時)を卒業。昭和35年、YHの会員となり、まもなくホステラー仲間とYH「やどかり」グループを創設。まだYH会員の少なかったころ、ホステラーを増やそうとPRをしながら各地を自転車で行きまわった。また南アルプスの山々を踏破した時期もあった。静岡県YH協会主催のホステリングではリーダーとして世界各地をホステリングする。ほかにボーイスカウト浜松13団を創設するなどの社会教育事業に係る。昭和61年から浜名湖YHのベアレントに就任。昭和63年3月退職の村・佐久間瀬川町字吉沢で廃校になった小学校を改装して「佐久間古沢YH」を開設。平成2年閉所して、現在は南アルプスを眺望できる長野県下伊豆郡下條村で「下条ランドYH」を経営。行政書士、自然観察指導員、長野県自然保護レンジャー、YHでは農業体験、リンゴジュース作り、そば打ち体験などができる。



うほのほのふるさと 一条村・ガイドマップ



次の下条ホステリング 2020.11. 21-22

- ▶参加者 5名(ジュニア会員3名、リーダー会員2名)
- ジュニア会員 日垣幸明(小6)・高橋和月(中1)・竹中優太(小4)
- リーダー会員 米津幸男、安藤寛
- 宿泊地 〒399-2101 長野県下伊那郡下條村地沢 7852-98
下条ランドYH Tel: 0260-27-2714 (P)村上和彦

	11月21日(土)	11月22日(日)
	日垣幸明(班長、食事係) 高橋和月(副班長、清掃) 竹中優太(保健係、忘れ物係) 6:45 集合	7:00 起床 8:00 朝食
0:00	7:24 磐田 ↓東海道本線	おにぎり作り 豊殖池で餅揉り・辛味大根の収穫
1:00	8:15 豊橋 8:19 豊橋 8:34 長山 9:05 長山 9:38 本長橋	12:15 出発 ↓徒歩 昼食(おおくで湖キャンプ場) ↓
2:00	10:28 本長橋 4:00 14:04 唐笠 ↓	15:10 唐笠 15:20 唐笠 ↓飯田線
3:00	↓徒歩	16:28 中部電車 16:31 中部電車
4:00	6:00 16:40YH着 焼で大根餅り	↓ 18:24 豊橋 18:30 豊橋 ↓東海道本線
5:00	5平餅作り 戸外で五平餅を焼き食べる ミーティング 入浴 就寝	19:06 浜松 19:18 浜松 ↓ 19:29 磐田 19:45 解散

磐田駅に3人が集合して出発式を行う。3人のうち高橋君は2年前の下条ホステリングに参加している唯一の体験者。竹内君は初めてのホステリング。磐田駅改札口で入場が済む。列車は乗換駅で数回停車し、乗車した列車は本長篠駅まで。本長篠駅で1時間近く待ち、唐笠駅に到着した時は14時4分。唐笠駅前には天竜川沿いの無人駅でバス停、タクシー、商店、民家もない。近くにある船着き場から天竜ライン下り(天竜峡一途登)の船着き場から降りてきた利用者の時勢、立ち寄る程度である。3人は天竜川の川辺から河原に山々を見ながら、宿のある東原地を目指して7kmの緩やかな坂道を歩いた。到着したころは西の山際に日が傾きかけた。YH到着後、リュックを置かずまもなく宿で大根廻りをした。その後、母屋の食堂で夕食の準備を作る準備のため、タレを作り、ご飯をすりつぶし、ヘラで串に付けた。鶏肉の中で、炭火をあおりながらPさんといっしょに五平餅を食べた。とてもおいしかった。YHの談話室でミーティングした後、順番に入浴をした。

2日目、早朝、意欲しに南アルプスにかかる雲間から日の出を見ることが出来た。朝食後、又さんPの指導でYH南側の道沿いにある湧き池に行って養蜂箱(マス)を洗い、付いた網を使って綺麗うと試みたが、1匹も捕ることができなかった。母さんPの指導の下で、芋虫大根が数多く植えられている畑に行き、みんなで掘り出してから1ヶ所に選んで大根の葉を包んで切り離した。収穫した大根は軽トラの荷台に載せて運んだ。食卓作り、クルミを割って竹でして白い実を取り出しクッキーの粉に入れて焼いた。また自分の昼食用のおにぎりを作った。終了後、記念写真を撮った後、Pさんにお礼のあいさつをした。唐笠駅に向けて出発した。その後、YHから1km東にある「おおくて湖キャンプ場」に行き、昼食をとる。YHへの分岐点まで戻り、昨日来た道を戻る。帰りの道は下りのため歩きを早めたが長い道のため足を痛めた子もいた。2つの店に立ち寄りながら唐笠駅に到着できた。唐笠駅から豊橋へ向かう。豊橋で乗り換え、磐田駅には予定通り無事着いた。

今日の反省点は磐田駅からの出発時で乗り遅れたことにあります。豊橋で乗り遅れるとJR新田線(普通列車)は2時間ほど待たなければならない。従って予定していた活動ができなくなってしまいます。子供たちにはどうしたらこのような失敗を無くすことができるかを考え、次に生かしてほしい。しかし今回、再び新型コロナウイルスが流行ってきた中で日程と場所を限定して実施した今年唯一の秋のホステリングが無事成功できたことは大変うれしいことであると考えている。



クルミ



下條で過ごす1泊2日

リーダー 米津幸男

今年初旬から感染拡大を始めた新型コロナウイルスの影響で、残念なことに春休み、初夏夏休みの3つのホステリングが中止となりましたが、今回の下条ホステリングでは、とにかく何ごともなく旅を終えることができたことが大成功であるように感じています。いつも旅の行先は子どもたちの希望する候補地の中から選んで決定していますが、今回はコロナ対応ということで特別にリーダーが日程と宿泊地を決定させていただきました。YHにユースホステルまでの長い往復の道のり、初めての太根廻りなどの農業体験は楽しんでもらえたでしょうか。回答は帰るときの子どもたちの笑顔が教えてくれました。

下条ランドYHのある下條村は長野県の南端、磐田市の南にある人口3,000余りの山々に囲まれた小さな村ですが、ちょっとした道路工事など村人が修繕してしまうと言う独立心に富んだ村として全国的にも知られています。また村人の「韓太す」の故郷として知られ韓太の顔が描かれた案内看板があちこちに建てられています。鉄道での下條村の玄関は天竜川沿いにあるJR磐田線の無人駅・唐笠駅ですが、列車が停まるのは2時間に1度くらいで、駅前にバス停もタクシー乗り場も、商店も自販機もありません。近くは天竜川ライン下りの船着き場があるため時々、団体バスが客待ちをしている程度で、鉄道を利用する人はわずかのようです。天竜川で削られたV字谷の底辺にある唐笠駅から、高原上の位置にあるYHまでの高低差は約300m余、距離は7kmもありますが、すべて自分の足で歩いて行かなければなりません(もちろん、宿泊者はYHに連絡すればすぐに車で迎えに来てもらえます)。

南アルプスから昇る太陽を見ることが出来る幸運なYHは下条ランドしかありません。クラブとしてこのYHを訪れたのは今回で8回目となります。前回は2年前で戻るので今回で2度目の訪問の人もいます。下条ホステリングが他のホステリングと異なるのは唐笠駅に降りた瞬間「下條時間」ベスィチが切りかわることです。唐笠駅からYHに泊まり再び戻るまでスケジュールはあって無いようなものです。ただ今回は残念ながらJR東海道本線での乗り遅れで、釜田線が2時間遅れになってしまった失敗が「下條時間」を少し消失してしまいました。予定通り歩いていれば森の草場にある原木からのシヤク採りなどの農業体験が余裕を持ってできたかと思えます。

今回も私たちのホステリングに誘って歓迎していただいたP(ベアレント)さんご夫妻には大変感謝申し上げます。おみやげにいただきました芋虫大根やリンゴなど、おいしくいただきました。ありがとうございました。

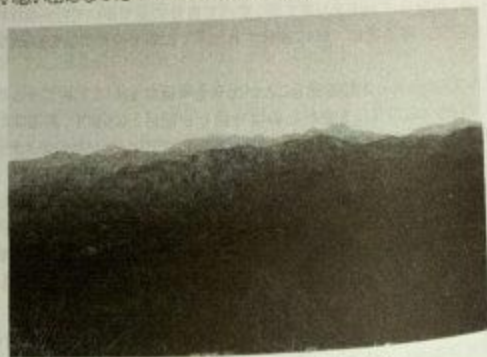


しんじょう 下條でしか体験できないこと

あんぱん せいし
安藤 寛

今年は新型コロナウイルスの影響でホステリングは秋が初めてでした。参加者は少数でしたが、計画作りや実際のホステリングは余裕をもって行えた、と思います。1日めは天気が良く、YHから南アルプスの山々がきれいに見えました。雪かき日が多かったせいか、雪がほとんどなく、白い部分がありませんでした。右側にある三角形が一番高いのが聖岳です。

朝田で予定の電車に乗れなかった（なぜかそうなったか、二度とそうならないように考えよう）ので、YH着が夕方になり、活動時間が少し減りました。それでも、1日めはからみ大根掘りや五平餅作り、2日めは大根の収穫の手伝いのほか、おにぎり作りやクルミ割りなどいろいろな体験ができました。こうした体験はほかのYHではなかなかできないことです。ほかにも長野らしい収穫風景や干しガキも見ることができました。良い思い出になったのではないのでしょうか。



下条ランドYHから見た南アルプス

旅のひとこま

2020.11.21-22

下条ランドYH（長野県）



1人だけの出発式(朝田駅)



YHから見える南アルプス全景（仙丈岳～聖岳）



大きな大根とれたぞ！



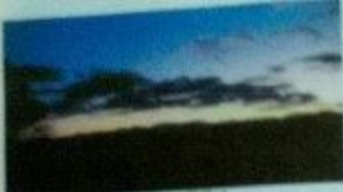
五平もちーご飯をこねてモチにする



モチモチの型に入れて串をつける



コンロのふちを立てて焼く



馬とムスビの散歩



農場からマス(魚)がとれたかなー？



からみ大根を振り、包丁で葉を切りはなす



お話を聞いて、子どもも聞いています



YKから見える風景



からみ大根とったぞ！



おんこを飲み、白い実を飲み出してクッキーへ



食べてクッキー作ったよ



ビイモム



一緒に、ありがとうございます。



お昼はおおぐて湖キャンプ場で自分が作ったおにぎりを食べる

滿蒙開拓平和記念館を見る ~旅人の心で~

新田線唐笠駅からYHまで子どもたちが歩く距離が約7kmもある広範囲なエリアを見守らなければならないことから下条ホステリングでは毎回リーダーは車を使用して参加しています。車で下條村に向かっていときに子どもたちから唐笠駅で乗り遅れ、唐笠駅に到着する時間が2時間遅れるとの連絡を受け、(予定していた時間が空いたことから、)以前より見たいと思っていた阿智村にある「滿蒙開拓平和記念館」に急遽行く先を変更しました。前々回(2015)の下条ホステリングで来村したときに、隣接する阿智村に「滿蒙開拓平和記念館」なる博物館がオープンされたことを知り、関心を持っていました。

阿智村は星空がきれいに見える人気スポットがあることで知られる村です。この自然が美しい小さな村になぜ民間の方によって「滿蒙開拓」に係わる日本で唯一の「滿蒙開拓平和記念館」が建てられたのでしょうか。館の説明資料によれば、阿智村を含む長野県南部地域は昭和初期の国策である農業移民事業・滿蒙開拓事業に全国で最も多くの人たちを送り出したことから、その歴史を後世に残し、伝えるために2015年に建設されたということです。

「滿蒙」とは中国東北部にある「満州」と「内蒙古」のことですが、当時、満州を支配していた日本の陸軍部隊、関東軍による満州事変を経て、1932年に建国された(日本陸軍があらゆる)国家が「満州国」ですが、当時、世界恐慌のおりを受けて不況に陥り、農業経済を支えていた農業移民は大打撃となり、借金を背負う農民もあり、滿蒙開拓に夢を見出す者もありましたが、実際には移民後の満州での生活は厳しく、1945年のソ連の侵襲で開拓団の人たちは野山を逃げ惑うことになり、開拓地一帯は一瞬のうちに戦場と化しました。満州国に渡った農業移民、滿蒙開拓団は全国から約27万人、そのうち約8万人が犠牲となりました。逃難行は苛酷を極め、殺されたり、病死した人も数知らず、中国の人に預け育てられて生き延びた子どももいました。1980-90年代には日本の本島の父母を探し求めての中国陝西孤児の帰国が話題となりました(館のホームページ等を参照)。

群馬県でも昭和17年以降の満蒙開拓事業の一翼を担って満州に渡り、数年で散骨を返え、国に歸葬された苛烈な青春を過ごした女性たちがありました。その1人である藤田市の寺田ふさ子さんが書かれた『無告の大地』(1996年出版)は当時の満州での開拓団の生活や壮絶な逃難行を生々しく頭の中に映し出してくれる本です。

「滿蒙開拓平和記念館」は、阿知川沿いにある懐古な道りの建物で、内部も長い廊取りを生かした趣のある展示がなされています。本来の役割である記録保存や展示のほか、最近ではセミナー室も増設され、未来を担う小中学生へ伝えるための平和教育、交流事業が催されていると言うことです。「滿蒙開拓平和記念館」は阿智村にあってこそ価値が理解され、活かしていただきたい博物館であると思います(米津)。

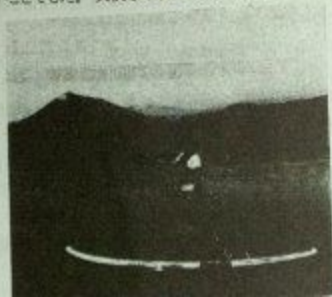
天竜ライン下り(天竜峡～唐笠) ~新たな手段で~

下條村は長野県南部に位置する自然豊かな山村ですが、私たちが住む磐田市は遠州平野の中心に位置し、南に太平洋と接する地方都市です。2つの土地の間には何の共通点もないように思われますが、唯一つながっているキーワードは「天竜川が潮らを流れている」と言うことでしょう。しかし、長野県南部の山峡を流れる天竜川は、私たちが子どもの頃から持っている中州の間をゆったりと流れる牧歌的なイメージではなく、屹立する岩を崩るかのような急流に勢いを感じさせる河川でした。

諏訪湖を源に発出した天竜川は、ゆるやかな河岸段丘が見られる伊那谷から天竜峡(磐田市)まで南下すると両岸は高い岩壁が続く景色へと一変します。天竜川舟下りはここから出発して奇岩や深谷美を楽しみながら4kmほど先にある唐笠港で下船します。天竜川ライン下りを堪能した観光客は、唐笠駅近くの空き地で待っていた観光バスの中へおびき込まれて行きます。かつての下条ホステリングでは豊橋行き、列車を待つ間に、このような光景を何度か目撃しています。

さて、車で唐笠駅に先回りして子どもたちが到着するのを待っていたとき、船着き場の方からサーフボードを持った2人の男女がやってきました。駅の駐車場に並ぶ2台の車の屋根にサーフボードを取り付けているときに「どこから来たのですか?」と尋ねたところ「天竜峡からこのボードに乗って来た」と答えられました。実はサーフボードではなくサップ(SUP=スタンドアップパドルボード)と言い、マリンスポーツの一種で使う運動用具で、私としては初めて見るものです。そういえばサーフボードより1回り大きいようだ。サーフィンやカヌー等と異なるのはボードの上に立ってパドルで操作するため高い位置から周囲を眺めることができると言うのが特長だそうです。

実は私の地元にある竜洋海洋センターでSUPの講習会があり、そのチラシを見てこのようなマリンスポーツがあることは知っていましたが、まさかこのような急流で有名な天竜川でできると思っても見ないことでした。爽快な!若いお二人に拍手!!(米津)。



～設立 39 年目 磐田ジュニアホステリングクラブのあらし～

YH (ユースホステル) は、20 世紀初め、ドイツの小学校教諭リヒルト・シルマン氏が、煤煙立ち上る工場地帯に住む子どもたちを空気のきれいな野山に連れ出して徒歩旅行を行ったのが原点であるといわれています。徒歩旅行中に新しい費用に出会い、旅行先の小学校に泊めてもらったという苦い体験から、途中で青少年が安全に利用できる宿泊施設を作ろうと思いついたのが YH の始まりで、現在、世界には 80 ヶ国、4000 ヶ所、日本では 140 ヶ所余あります。相部屋、男女別。宿泊者同士との交流、情報交換可、年齢制限無し。

磐田ジュニアホステリングクラブは、昭和 57 年にボランティア有志が立ち上げた小中学生 (小 4～中 2) を対象にした旅行クラブ。年 4 回 (初夏・秋 1 泊、夏・春 2 泊) の YH を利用した旅行、野外活動を実施し、自主性、自立心、協調性をそなえたホステラー (旅人) を養成することを目的としています。YH を利用した日本で唯一の子どもの旅行クラブです。今年度の会員構成は、全 14 名で、男子 8 名、女子 6 名。学年別では中学 2 年 4 名、1 年 4 名、小学 6 年 2 名、小学 5 年 2 名、小学 4 年 1 名です。会員の所属学校は、中学校 4 校、小学校 4 校です。サブリーダー会員 (中学 3) 1 名、リーダー会員は 3 名 (ボランティア)。

ホステリング (YH を利用して旅行をする) を実施する前には、必ず保護者とのコミュニケーションを図り、活動の内容を理解していただいています (父母会)。子どもたちは旅の基本的な知識を学び (勉強会)、地図や時刻表、ガイドブックなどを用いて計画を立てます (準備会)。旅先は子どもたちの提案により決定されます。目的地までは 3-4 人の個別行動となるために、各朝でルートの立ち寄り先や、旅費、持ち物などを調べます。実際の旅ではリーダー (大人) の付帯ではなく、子どもたちが計画したスケジュールに沿って自分たちの判断で目的地へ向かいます。子どもたちはときに道に迷い、電車で乗り遅れたりする失敗に直面しますがみんなで協力してこの困難を乗り越えてゆきます。またハプニングや人との出会いのなかで、地元の人たちの親切な心を肌で感じます。また YH で宿泊するなかで外国人や自転車で日本 1 周をしている人、あるいは YH のご主人 (ペアレント) などいろいろな人との出会いがあります。YH ではセルフサービスの心、親切心をもって、規則正しい生活を行うことが求められます。毎晩、必ずミーティングを行い一日の反省や翌日の予定を確認します。旅行後は報告会を開いたり、感想文集を作成して楽しい思い出を残します。

子どもたちは主体的なホステリング (旅) を通し、様々な体験を重ね、人間を拡張、心が成長することを願っています。このホステリング体験を活かして若いうちに海外を含む多くの旅を楽しみながら、物事を自分で判断し、考え、行動できる社会人になっていただくことを望んでいます。

(お問い合わせ) 磐田ジュニアホステリングクラブ代表 米津幸男 Tel: 090-2618-7269